

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100135		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター西濃		
所在地	岐阜県大垣市橋町2丁目9-1		
自己評価作成日	平成23年8月9日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/informationPublic.do?JCD=2192100135&SCD=320&PCD=21001
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年1.2回のバス旅行・ご家族にも声を掛け参加していただいています。 夏祭りは特に力を入れて家族と共に楽しんで頂いています。 毎月幼稚園児が訪問に来てくださり、交流を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と一緒に献立を考え、食材選び・下ごしらえ・盛り付け・配膳と積極的に参加し、職員は家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの力を活かせるよう支援をしている。半数の利用者が毎日入浴しており、ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じたり、入浴剤は香りや色を楽しんでもらえるよう工夫をしている。疾病を持つ利用者が多く、急変時には速やかに対応できるように、毎月の会議時に救急搬送や蘇生(人工呼吸)の練習を繰り返し行い実践力を身につけている。家族との関わりが途切れないように、家族同伴の日帰り旅行を計画したり、運営推進会議に全ての家族に順番に参加してもらう等して協力関係を築いている。毎月行われるホーム内会議には必ず全職員が参加し、意見や要望を話し合い、利用者本位の支援に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様又は家族様の事を私たちは、お客様と呼ぶ。経営姿勢の理念の元と、事務所に掲げてある、経営理念を毎朝唱和し、業務に当たっている。	地域住民との交流を意識して理念を作り上げている。管理者・職員は毎朝の申し送り時に唱和し、常に理念の理解に努め、地域と関わりを持ちながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実行し、民生委員様・自治会長様・ご家族様との交流を大切にし、地域のイベントなどにも積極的に参加している。	毎月1回幼稚園児の訪問を受け、肩たたきやゲーム等で楽しい時間を過ごしている。自治会に加入しており、回覧板から地域の行事を知り参加したり、事業所の行事を案内することで地域の人の参加を得るなど双方向の交流が実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板等から、地域の情報を得て、参加できるイベントには、参加したり、天気の良い時は、散歩に出かけ、ご近所の方とも気軽に声がけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、参加者様との意見交換等を行い、ホームの状況・お願い事などを話し合っている。	会議には全ての家族が順番に参加している。利用者の様子や行事等の報告を行い、参加者からは問題解決に向けた助言をもらい有意義な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実行して、市役所の福祉課へ出向き、現状報告(空情報)等福祉課の方からの意見交換を行う。又市町村などの開催する会議等にも積極的に参加をするように心がけている。	市役所の高齢介護課へ出向き、変化のあった利用者の様子や空き情報を報告している。又、地域包括支援センターの看護師から介護の方法について助言をもらう等常に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていませんが、ケアスタッフには、毎月会議の中で話し合いをし、周知徹底している。	月1回全職員が参加してホーム内会議を開き、身体拘束や虐待について話し合い理解を深めている。玄関の施錠についても身体拘束に当たると認識し、利用者の思いを大切に鍵をかけずに見守りの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内会議においても、虐待等について、話し合いがあり、ホームにおいてもその課題を持ち帰り、ミーティング等にて話し合い、防止に努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中で話し合い、意見交換を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、すべて説明し、ご家族に理解・納得していただき、質問などがあれば、お聞きする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がお見えになった時等に、ご家族の苦情・ご希望などを聞き、実践するように心掛けている。	家族訪問時に管理者・職員が常に声掛けし、どんな些細な意見や要望でも言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出された意見や要望はすぐに解決に向けた話し合いを行い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のホーム内会議等にて、意見を聞き、2ユニットが情報交換等しながら、お互いの考えを提案し、運営に反映させている。	事業所内会議等で日常的に職員の意見を聞いている。ケアについての意見がよく出され、地域包括支援センターの看護師の助言を取り入れ話し合っている。又、夜勤に不安を訴える新人職員の不安を和らげる為に、管理者と一緒に泊まった事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の実施・スキルアップ研修など、キャリアアップへの情報提供を積極的におこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会や研修会など、社外からの案内をスタッフに知らせ、希望者にはシフトを調整し、出きる限り受講していただく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修で知り合った同業者の話や、訪問等も行い、その中で利点等を見つけホームの運営の参考にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、行動も観察しながら、ホームでの生活になれて頂けるよう、声かけをまめにし、コミュニケーションに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事、不安な事を良く聴き、要望には答えられるよう、スタッフ間で情報を共有し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な角度から考慮し、ご本人様とご家族様にとって無理が無く、必要な支援・サービス支援を ケアマネと共に対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を損なわず、手をだし過ぎないようにケアに努める。その時の状態に合わせた、柔軟な声かけと ケアに努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に合わせた、ケア・又新たな問題が生じた時ケアマネと相談し、ご本人とご家族の絆を大切にしながら支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの訪問者、誘い等あればご家族の了承の下、積極的にすすめ、地域との関わりをもち続けてもらえるよう努める。	行きつけの店へ買い物に行きたいと希望する利用者や、友人と一緒に温泉や外食に出掛ける利用者のために、家族と連絡を取り都合を調整するなど実現に向けた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常のお手伝いを通して、利用者同士が関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から連絡があれば、随時相談・連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話しやすい環境を作ったり、普段の会話の中のつぶやきを大切にしている。困難な方には、本人の立場で考え支援している	常に声掛けをし、利用者の話に耳を傾け思いや意向の把握に努めている。又、入浴時安らいた雰囲気や昔の暮らしについて話し出す利用者もあり、職員は話を引き出そうと常に心掛け接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人またはご家族から、どのような事を行ってきた方なのかを聞いている。またどんなサービスを利用されていたかなどアセスメントや話しの流れから聞きだしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、一人一人に関わり、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスでの話し合いの場を持ち、スタッフからの意見を聞いたり、提携医からの話を随時しており、ご家族の思いを面会時に聞き、作成している	担当者会議で職員から意見を聞き、家族からの意見や要望を取り入れ計画を作成している。変化が生じた場合は現状の評価を行い、医師の助言や情報を参考に話し合い見直しをして現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく付けて、変わった事があれば報告している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師と常日頃から連携し体調管理や、福祉用具の貸与、移送サービスの利用をしている		

ニチイケアセンター西濃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配色サービスや移送手段など、個々の状態に合わせて使用し、また地域のボランティアや幼稚園児に訪問してもらい、交流を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意をいただき事業所の協力医療機関の医師が、月2回の往診と体調不良時の受診往診をしていただいている	入居時にかかりつけ医と協力医の受診について説明している。専門医とかかりつけ医の継続受診については家族の協力をお願いし、診察結果の報告を受け共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	なし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や相談員、看護師に情報を頂き、こちらの意向も伝え、関係づくりや退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療が必要になるまでは、スタッフができる限り、お客様の状態を観察し支援している 提携医とも密になる	重度化に向けた取り組みについて入居時に説明し理解を得ている。状態が変化したときには、医師の説明を受け職員と家族で話し合い、事業所でできることを説明し、同意書を交わして方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、対応できるように、毎月の会議時に実演練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練で練習し、運営推進会議で、地域の方に協力をお願いしている。	消防署に依頼して救急搬送や人工呼吸の訓練を行っている。運営推進会議で訓練について話し合い、民生委員と自治会長の参加が得られた。今後さらに地域の人々の協力が得られるよう話し合いを進めている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回のホーム内会議とカンファレンスで全スタッフに周知徹底している	接遇マナーの研修や会議で、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けについて話し合っている。トイレ誘導についてもさりげなく声掛けし、利用者を傷つけないように心掛けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で食べたい物を聞いたり、今何をしたいかななどを聞き提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お声がけをし、要望も伺いながら、過ごしやすい環境を、提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節事にスタッフが衣類の入れ替えをお客様と共に入れ替えをしたり、その日に服も各自が選んで来て頂いており、2ヶ月に1度家族の同意の下髪をカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備(食材切り・餃子作りなど)を手伝って頂いたり、後片付け(食器拭きなど)を手伝っていただいたりしている	利用者は個々の力を活かし食材の下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けと一緒に調理を楽しんでいる。しかし、職員は見守りと介助を行っていて、一緒に食事することがないため、利用者と会話を楽しむ姿はほとんど見られなかった。	職員も利用者と一緒に同じ食事を取り、会話の橋渡しをする等、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しめる環境を作るよう工夫されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認し、週一回体重測定をし、その方の体調に合わせて、食事の量を加減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝前には、各自できる所までは、口腔ケアして頂き、できない所は、援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツは特別な事情がない限り、使用しない。2時間位で声がけし、トイレ誘導にて排泄していただく	個々の排泄パターンをチェックし、他の利用者に気付かれないようトイレ誘導している。ほとんどの利用者がリハビリパンツとパットを使用し、オムツを使用しない自立に向けた排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、十分な水分補充と散歩していただき、繊維質の多い食材を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の希望を確認し、入浴していただく。入浴できない方は、おしもを中心に全身清拭をし清潔にしている	半数の利用者は毎日入浴を楽しんでいる。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じたり、入浴剤を使い香りや色を楽しんでもらう工夫をしている。誕生日にバラの花びらを入れたフラワーバスを用意して喜ばれたこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かしてもらうよう促し、夜安心して眠れるように日中の活動に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルの作成・処方箋のコピーをファイルに保管し、全職員がわかるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせた、レクリエーションやお手伝いの提供をし、時には外出の機会を作り、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰りバス旅行を年2・3回企画し、季節感を楽しんだり、外食を楽しんだりしていただいている	福祉バスを利用して年2回旅行を実施している。しかし、日常的な買い物やドライブ等は、本社の規則により事業所の車を使用しているため、家族の協力が得られなかったり、出掛けられない現状となっている。	管理者・職員は、利用者の希望や思いに添って、日常的に外出できる喜びが味わえるよう、今までの生活の継続の観点から支援の実現について話し合われることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いをお預かりし、事業所が管理しているが、外出時などには、お客様に見守りしながら、自己管理をしていただき使い方について支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話・入居者様がかける電話にてゆっくりお話しをしていただいたり、手紙やはがきが届くと読んでいただいたり、返事なども書いて頂いたり、しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂はユニットバスで1人ずつはいつて頂く。流れの良い音楽を居間にて流し、季節の花などを飾り、イベントなどの飾付をしている	リビングには何時でも寛げるようソファが置かれ、利用者は食後に習慣のように座っている。壁には職員手作りの作品を飾り季節感を演出している。又、行事の写真や毛筆で書いた俳句が掲示され、利用者が主役と感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外・テラスに長いすを置き花を見てもらったり・風のあるときは、涼んでもらったりできるようにしている。リビングの窓際にソファを置き気軽にTVを見たり、涼んでいただいたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、タンス・机などをそのまま、使用してもらい居心地よい空間を作る工夫をしている	ベッドに慣れない利用者には、これまでの生活習慣に合わせ床に布団を敷いて過ごしてもらっている。使い慣れた習字道具を持ち込み俳句を書いて楽しんでもらう等一人ひとりに合わせた居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には、分かりやすいように目印をし、物品は本人が取り出しやすいように整理している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100135		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター西濃		
所在地	大垣市橋町2丁目9-1		
自己評価作成日	平成23年8月9日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/inforati.onPublic.do?JCD=2192100135&SCD=320&PCD=21□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者又家族等を私たちはお客様と呼ぶ。経営姿勢の理念の元と事務所内に掲げている、経営理念を毎朝唱和して、常務にあたる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実行して、民生委員様・自治会長様・ご家族様との交流を大切にし、地域のイベントなどにも積極的に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板等から地域の情報を得て、参加できるイベントには、参加したり天気の良いときには、散歩に出かけ、ご近所の方達とも気軽に声がけをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開いており、民生委員・社会福祉協議会の人、自治会・オーナー様・ご家族様と近況報告等行い意見交換をしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実行して、市役所の福祉課へ出向き、現状報告(空き情報)等福祉課の方からの意見交換を行い、市町村の行う会議等できるだけ参加している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていませんが、ケアスタッフには、毎月の会議などで、話し合い周知徹底している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内会議においても虐待等についての話し合いがあり、その事に対して持ち帰り、ミーティング等にて、話し合い防止に努める		

ニチイケアセンター西濃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中で話し合い意見交換を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、すべて説明して、ご家族に理解・納得していただき、質問などがあればお聞きする		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がお見えになった時等にご家族の苦情など・ご希望などを聞き実践するようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のホーム内会議等にて意見を聞き2ユニットが情報交換等をその話題にたいして、提案等をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の実施・スキルアップ研修などのキャリアアップへの情報提供も積極的におこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会や研修会など社外からの案内状をロッカールームに張り出し、希望者には、シフトを調整し、出来る限り受講していただく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修で知り合った同業者の話や前職場での利点をホームの運営の参考にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のアセスメントや入居されてから、まめに話をしコミュニケーションを図り、思いを伺ったり他のお客様にもなじんでいけるよう気を配っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がどのような事で困っているのか、どのように本人に過してもらいたいのか、伺い、できる限りご家族の思いを聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のアセスメントで本人や、ご家族のおもいを伺い、ホームで対応できる事・できない事について、他にもサービスがあることを伝える		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の食事に合わせ、お客様に食材を切って頂いたり、生活の中にて共存できる部分は共に行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回家族を招いてのレクリエーション(夏祭りなど)を行い、家族との繋がりを大切にしていきながら、本人を支えていくように働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お部屋に家族の写真を置いて頂いたり、思い出の品物なども大切に保管していただき、それを題材にお話などしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングを開放しなるべく部屋に閉じこもる事がないように声がけをしたりして、座席も本人に意向を大意説にし、気軽に動ける空間を作り、利用者同士が気軽に話せる雰囲気作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から連絡があれば、随時相談・対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話から、その方が好きな事、どうしたいのかを聞いたり、探っている。本人が土思いを伝えられない場合は、気持ちよくすごして頂けるよう考えている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または、ご家族から、どのような事を行ってきた方なのかを聞いている。又どんなサービスを利用されていたかなどアセスメントや話の流れから聞きだしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ現場を見たり、申し送りや、介護記録・スタッフの話から現状把握に努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスでの話し合いの場を持ち、スタッフからの意見を聞いたり、提携医からの話を随時したり、ご家族の思いを面会児に聞き、作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく付けて、変わった事があれば報告している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師と常日頃から連携し体調管理や、福祉用具の貸与、移送サービスの利用している		

ニチイケアセンター西濃

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や外食、ご近所を散歩し、気分転換や、近くの幼稚園児から、定期的に園児の訪問があり喜ばれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意をいただき事業所の協力医療機関の医師が、月2回の往診と体調不良時の受診往診をしていただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	なし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医と情報交換をする、家族とも話し、回復状況の情報交換をし、退院支援に結びつける		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療が必要になるまでは、スタッフができる限り、お客様の状態を観察し支援している 提携医とも密になる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会の実施については、緊急時のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。外部から来社していただき講習会をしていただく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防訓練・避難訓練・消火器の使用方法を行っている。マニュアルを参考にし何時でも見られるように配置している 今後は2回は行うようにする		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回のホーム会議とカンファレンスで全スタッフに周知徹底している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で食べたい物を聞いたり、今何をしたいかななどを聞き提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自居室とリビングを使用して頂き自由に時間を楽しんで頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節事に担当スタッフが衣類の入れ替えをお客様と共に入れ替えをしたり、その日に服も各自が選んで来て頂いたり、2ヶ月に1度家族の同意の下髪をカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備(食材切り、餃子作りなど)をして頂いたり、後片付け(食器拭きなど)を手伝っていただいたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を2週間に一度測り増減を見たり、体調を気にしながら、食事の量・おやつ量を考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝前には、各自できる所までは、口腔ケアして頂き、できない所は、援助している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツは特別な事情がない限り、使用しない。2時間位で声がけし、トイレ誘導にて排泄していただく		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、十分な水分補充と散歩していただき、繊維質の多い食材を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の希望を確認し、入浴していただく。入浴できない方は、おしもを中心に全身清拭をし清潔にしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かしてもらうよう促し、夜安心して眠れるように日中の活動に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルの作成・処方箋のコピーをファイルに保管し、全職員がわかるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事はなるべくやって頂くようにする。洗濯物干し・かたづけ・食物やみずやりなど皆さんで協力しながらしていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰りバス旅行を年2・3回企画し、季節感を楽しんだり、外食を楽しんだりしていただいている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いをお預かりし、事業所が管理しているが、外出時などには、お客様に見守りしながら、自己管理をしていただき使い方について支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話・入居者様がかける電話にてゆっくりお話しをしていただいたり、手紙やはがきが届くと読んでいただいたり、返事なども書いて頂いたり、しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂はユニットバスで1人ずつはいつて頂く。流れの良い音楽を居間にて流し、季節の花などを飾り、イベントなどの飾付をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外・テラスに長いすを置き花を見てもらったり・風のあるときは、涼んでもらったりできるようにしている。リビングの窓際にソファを置き気軽にTVを見たり、涼んでいたたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、タンス・机などをそのまま、使用してもらい居心地よい空間を作る工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行できる人は、手すりを使用しながら、見守りにて歩行してもらう。衣服の着脱などもやれることは自分でやっていただき見守りにて行う		